

専門分野Ⅱ 成人看護学		科目名：成人看護学概論	野知 祥子（看護師）	1単位 30時間 (1年次後期)
学習目標		1. 成人期における対象を理解する。 2. 看護の機能・役割について理解する。 3. 成人期における保健活動の意義を理解し、健康の保持増進を図る援助を理解する。 4. 健康障害時の健康レベルに応じた看護方法を理解する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容	授業形態
1	成人について	野知	1. 成人の定義 2. 生涯発達の特徴 3. 発達課題（エリクソン、ハヴィガースト）	講義 グループワーク
2	成人各期における特徴		1. 青年期の発達の特徴 2. 壮年期・高齢期の発達の特徴	グループワーク
3	成人各期における特徴		1. グループワーク発表	グループワーク
4	成人の生活と健康		1. 成人の生活状況の特徴 2. 成人の人生観・健康観	講義
5	成人保健の動向		1. 人口構造の変化 2. 平均余命 3. 健康障害と疾病の概況（有病率、受療率、死亡の動向） 4. 保健・医療・福祉の連携	グループワーク
6	成人保健の動向		2. グループワーク発表	グループワーク
7	成人特有の健康問題の特徴		1. 生活習慣に関連する健康障害 2. 生活ストレスに関連する健康障害 3. 職業に関連する健康障害 4. 感染に関する健康障害 5. セクシャリティ・更年期に関する健康障害	グループワーク
8	成人特有の健康問題の特徴		2. グループワーク発表	グループワーク
9	健康な生活の保持・増進の看護（ヘルスプロモーション）		1. 生活習慣病予防と対策 2. 疾病対策 3. 労働衛生対策 4. 学校保健	講義
10	成人への看護アプローチの基本		1. 大人の学習の特徴と看護（アンドラゴジー） 2. チームアプローチ 3. 意思決定支援 4. 家族支援	講義
11	健康障害時の健康レベルに応じた看護①		1. 急性期にある対象への看護 1) 生命の危機状態 2) 危機理論（アギュレラヒメズイック、フィンク）	講義
12	健康障害時の健康レベルに応じた看護②		2. 障害がある対象の看護 1) 障害受容過程 2) リハビリテーション 3) 退院支援	講義
13	健康障害時の健康レベルに応じた看護③		3. 慢性期にある対象への看護 1) 病みの軌跡、セルフケアコントロールへの援助 2) エンパワーメントエデュケーション	講義
14	健康障害時の健康レベルに応じた看護④		4. 人生の最期のときを支える看護 1) 全人的苦痛 2) 疼痛コントロール 3) QOLの保証 4) 悲嘆へのケア	講義
15	終講試験		筆記試験・まとめ	試験
履修上の留意点		1. 常にテキストは持参する事		
1. テキスト 2. 参考書		1. 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 2. 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会		
評価方法		1. 筆記試験		

専門分野Ⅱ 成人看護学	科目名：運動機能に障害のある成人の看護	鈴木 由美子（看護師） 桐生 伸子（看護師） 村山 富美代（看護師） 石塚 雄大（看護師） 齋藤 美紀（看護師）	1単位 30時間 (2年次前期)
学習目標	1. 運動器に障害をもつ成人及びその家族への看護の方法を理解する。 2. 脳神経系に障害をもつ成人及びその家族への看護の方法を理解する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	運動器系の検査を受ける成人への看護	鈴木	1. 検査・処置・診断を受ける患者の看護 1) 関節可動域検査 (ROM)、徒手筋力テスト (MMT) 2) 画像検査 (脊髄造影、椎間板造影、骨シンチ、骨密度) 3) 膝関節鏡 4) 筋生検
2	運動器系 症状とアセスメント と看護 機能障害に応じた看護	鈴木	2. 症状とその病態生理とそのアセスメント 1) 疼痛 2) 形態異常 3) 関節運動異常 4) 神経障害、循環障害 5) 歩行・異常歩行 6) 筋肉の障害 7) 出血性ショック 8) 感染 3. 機能障害による患者の特徴 (生命・生活への影響) に応じた看護 1) 姿勢機能障害 2) 移動機能障害 3) 作業機能障害
3	運動器系の処置・治療を受ける成人への看護	鈴木	4. 治療を受ける患者の看護 1) 保存療法・非観血的治療 (ギブス固定、牽引法) と看護 2) リハビリテーション (理学療法/作業療法/言語療法) と看護 義肢・装具使用時の看護 3) 手術療法 (人工関節・固定術等) と看護
4	運動器系 疾患別の看護	桐生	5. 病気や機能障害に応じた看護 1) 外傷性・外因性疾患 2) 内因性疾患
5			
6		桐生	【校内演習】 1) 歩行の援助(松葉杖) 2) 深部静脈血栓予防
7	機構が担う脳神経・運動機能に障害のある患者の看護	村山	1. 重症心身障がい者の看護 2. 重症筋無力症
8			3. 筋ジストロフィー患者の看護 4. 筋萎縮性側索硬化症 (ALS)
9	脳・神経系の検査・処置を受ける成人への看護	石塚	5. 検査・処置を受ける患者の看護 1) 脳波検査 2) 髄液検査 3) 脳血管造影
10	脳・神経系 症状アセスメント 機能障害に応じた看護 疾患別の看護	石塚	6. 病気の症状とその病態生理、アセスメント 7. 機能障害による患者の特徴 (生命・生活への影響) に応じた看護 1) 生命維持活動調節機能障害 (頭蓋内圧亢進、意識障害、呼吸障害) 2) 認知障害、言語障害、運動障害、感覚障害 3) 嘔下障害 4) 排尿障害 8. 疾患別による患者の特徴 (生命・生活への影響) に応じた看護 1) 脳血管障害 (脳梗塞・出血) 2) 脳腫瘍 3) 感染症 (脳炎、脊髄炎) 4) 頭部外傷 5) 脊椎損傷 6) ギランバレー症候群 7) パーキンソン病
11			
12			
13	脳・神経系の治療・処置を受ける成人への看護		8. 治療・処置を受ける患者の看護 【手術療法他を受ける患者の看護】 【薬物療法を受ける患者の看護】 【リハビリテーション療法を受ける患者の看護】 1) 急性期 2) 回復 3) 維持・慢性期
14	感覚機能障害 (眼・耳鼻咽喉) を持つ患者の看護	齋藤	1. 感覚機能障害 (眼・耳鼻咽喉) の検査に伴う看護 2. 感覚器障害 (眼・耳鼻咽喉) の処置・治療に伴う看護 3. 感覚機能障害 (眼・耳鼻咽喉) を持つ患者の看護 14回目/90+45分
15	終講試験		筆記試験 45分
履修上の留意点		1. 常にテキストは、成人看護学〔10〕運動器 成人看護学〔7〕脳・神経 2. 配布資料は全て持参 学習形態はその都度指示	
1. テキスト 2. 参考書		1. 系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経 〔10〕運動器 〔13〕眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験	

専門分野II 成人看護学	科目名：生命維持機能に障害のある成人の看護	桑原 和敏（看護師）小林 明夏（看護師）赤石 吾郎（看護師）今野 篤（看護師）	1単位 30時間 (2年次前期)
学習目標	1. 循環器系に障害をもつ成人およびその家族への看護の方法を理解する 2. 呼吸器系に障害をもつ成人およびその家族への看護の方法を理解する 3. 血液・造血器系に障害をもつ成人およびその家族への看護の方法を理解する		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	循環器機能障害の検査・処置を受ける患者の看護	赤石	1. 心電図 2. 心血管超音波 3. 血管造影 4. 心臓カテーテル検査
2	循環機能障害をもつ患者のアセスメント	赤石	1. 患者の特徴（生命・生活への影響） 2. 症状の病態生理とアセスメント① 1) ポンプ機能障害 1. 症状の病態生理とアセスメント② 2) 刺激伝導障害 3) 血管・リンパ管障
3	循環機能障害の治療を受ける患者の看護	赤石	1. 経皮的冠動脈形成術（PCI） 2. 冠動脈バイパス術（CABG） 3. 弁置換術・弁形成術 4. 大動脈内バルーンパンピング（IABP）
4		赤石	5. ペースメーカー 6. 植え込み型除細動器 7. 血栓溶解療法・血栓除去術
5	循環機能障害の疾病と症状に応じた看護	赤石	1. 心不全 2. 虚血性心疾患 3. 弁膜症 4. 不整脈 5. 閉塞性動脈硬化症（下肢動脈閉塞症）
6	呼吸機能障害の検査・処置を受ける患者の看護	桑原	1. 動脈血液ガス分析 2. 呼吸機能検査 3. 気管支鏡検査 4. 胸腔穿刺 5. 肺生検 6. 画像検査（胸部レントゲン、CT、MRI）
7	呼吸機能障害をもつ患者のアセスメント	桑原	1. 患者の特徴（生命・生活への影響） 2. 症状とその病態生理、アセスメント 1) 酸素化障害 2) 換気障害 3) 呼吸運動障害
8	呼吸機能障害の治療・処置を受ける患者の看護	小林	1. 酸素療法 2. 非侵襲的陽圧換気 3. 侵襲的陽圧換気 4. 肺切除術
9			5. 胸腔ドレナージ 6. 吸入による薬物療法 7. 薬物療法
10		小林	1. 腫瘍（肺がん・中皮腫） 2. 炎症性疾患（肺炎、気管支炎、胸膜炎）
11		小林	3. 慢性閉塞性肺疾患（COPD） 4. 気管支喘息
12	血液・造血器障害をもつ患者の看護	今野	1. 患者の特徴（生命・生活への影響） 2. 血液・造血器障害の症状とその病態生理、アセスメント 1) 免疫機能障害 2) 骨髄機能障害 3. 血液・造血器障害の検査・処置を受ける患者の看護 1) 血液検査 2) 骨髄穿刺 3) 生検
13			4. 血液・造血器障害の治療を受ける患者の看護 1) 輸血療法 2) 化学療法 3) 造血幹細胞移植
14		今野	5. 血液・造血器障害の疾患に応じた看護 1) 白血病 2) 悪性リンパ腫
15	終講試験		筆記試験・まとめ
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは持参 2. 配布資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示	
1. テキスト 2. 参考書		1. 系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器、[3] 循環器、[4] 血液・造血器 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ 成人看護学	科目名：消化機能・代謝機能に障害のある成人の看護	金子 諒（看護師）徳長 和美（看護師） 徳久 暢介（看護師）藏本 梨沙（看護師） 御手洗 直子（看護師）	1単位30時間 (1年次後期)
学習目標	1. 消化器系に障害を持つ成人及びその家族への看護の方法を理解する。 2. 代謝系に障害を持つ成人及びその家族への看護の方法を理解する。 3. 内分泌系に障害を持つ成人及びその家族への看護の方法を理解する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	消化機能障害の症状とその病態生理、アセスメント ①食道、胃、十二指腸、腸・腹膜 ②脾臓、胆、肝	金子	1. 患者の特徴（生命・生活への影響） 2. 症状とその病態生理のアセスメント 1) 消化・吸収機能障害（食道、胃・十二指腸、腸・腹膜の疾患） 2) 脾臓分泌障害（脾臓疾患） 3) 胆汁分泌・通過障害（脾臓・肝臓・胆嚢疾患） 4) 肝機能障害（肝臓・胆嚢疾患）
2	①外科的治療を受ける患者の看護 ②放射線治療を受ける患者の看護	徳長	1. 消化器の手術を受ける患者の看護 1) 食道再建術 2) 胃切除術 3) 人工肛門造設術 援助の実際：中心静脈栄養法
3			1. 検査を受ける患者の看護 1) 放射線検査 2) 内視鏡検査 3) 腹部超音波検査 ERCP 2. 治療・処置を受ける患者の看護 1) 薬物療法（化学療法） 2) 食事療法 3) 手術療法
4	消化機能障害に応じ検査・処置・治療を受ける患者の看護	徳久	1. 肝臓疾患と看護（肝炎、肝硬変、肝癌） 1) 肝庇護療法 2) インターフェロン療法 3) 肝動脈塞栓術
5	①外科的治療を受ける患者の看護		2. 消化管腫瘍の内科的治療（薬物療法/化学療法、食事療法）と看護 1) 口腔・咽頭腫瘍：舌癌、咽頭がん、喉頭がん 2) 上部消化管腫瘍：食道がん、胃がん 3) 下部消化管腫瘍：大腸がん、結腸癌
6	②放射線治療を受ける患者の看護		3. 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）と看護 4. 潰瘍性疾患（十二指腸潰瘍）と看護 5. 胆石症と看護 6. 脾炎と看護
7	消化機能障害に応じた検査・処置・治療を受ける患者の看護	徳久	1. 患者の特徴（生命・生活への影響） 2. 症状とその病態生理 1) 代謝機能障害 2) 血糖調節機能障害（糖尿病）
8	①内科的治療を受ける患者の看護		1. 検査・処置を受ける患者の看護 1) 糖負荷試験（OGTT） 2) 血糖自己測定 2. 治療を受ける患者の看護 1) インスリン補充療法 2) 糖尿病経口薬による治療 3) 食事・運動療法
9	1. 病気や機能障害に応じた看護 1) 高尿酸血症、脂質異常症、肥満 2) I型糖尿病 3) II型糖尿病		
10	代謝機能障害の症状とその病態生理、アセスメント	藏本	1. 検査・処置を受ける患者の看護 1) 糖負荷試験（OGTT） 2) 血糖自己測定 2. 治療を受ける患者の看護 1) インスリン補充療法 2) 糖尿病経口薬による治療 3) 食事・運動療法
11	代謝機能障害に応じた検査・処置・治療を受ける患者の看護		1. 病気や機能障害に応じた看護 1) 高尿酸血症、脂質異常症、肥満 2) I型糖尿病 3) II型糖尿病
12	1. 患者の特徴（生命・生活への影響） 2. 症状とその病態生理、アセスメント 1) 副腎機能障害 2) 下垂体機能障害 3. 検査・処置を受ける患者の看護 1) ホルモン血中・尿中濃度測定 2) ホルモン負荷試験		
13	内分泌機能障害の症状とその病態生理、アセスメント 内分泌機能障害に応じた検査・処置・治療を受ける患者の看護	御手洗 14回目/ 90+ 45分	4. 治療を受ける患者の看護 1) 甲状腺ホルモン療法 2) 甲状腺切除術 5. 病気や機能障害に応じた看護 1) 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症） 2) 脳腫瘍（甲状腺癌、下垂体腫瘍）
14	1. 成人看護学 [5] 消化器、成人看護学 [6] 内分泌・代謝 1. 系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器、[6] 内分泌・代謝 医学書院		
15	終講試験		1. 筆記試験 45分
履修上の留意点		1. 成人看護学 [5] 消化器、成人看護学 [6] 内分泌・代謝 1. 系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器、[6] 内分泌・代謝 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ 成人看護学	科目名：排泄、生殖機能、免疫 機能に障害のある成人の看護	池田 桂(看護師) 神田 雪枝(看護師) 徳原 伸子(看護師) 傑木 千恵(看護師)	1単位 30時間 (2年次前期)
学習目標	1. 腎・泌尿系に障害を持つ成人及び家族への看護の方法を理解する。 2. 女性生殖器系に障害を持つ成人及び家族への看護の方法を理解する。 3. アレルギーを持つ成人及び家族への看護の方法を理解する。 4. 膜原病を持つ成人及び家族への看護の方法を理解する。 5. 感染症を持つ成人及び家族への看護の方法を理解する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護	池田	1. 症状に対する患者の看護 1) 浮腫 2) 高血圧 3) 排尿障害 4) 尿失禁 5) 疼痛、血尿、尿閉
2	腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護	池田	2. 検査を受ける患者の看護 1) 尿検査 2) 膀胱鏡検査 3) 生検 4) 尿流動態検査
3	腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護	池田	3. 治療・処置を受ける患者の看護① 1) 急性・慢性腎不全 2) ネフローゼ 3) 糸球体疾患 4) アミロイド
4	腎・泌尿器系に障害をもつ患者の看護	池田	4. 治療・処置を受ける患者の看護② 1) 尿路変更術を受ける患者 2) 腎摘出術を受ける患者 3) 腎瘻、膀胱瘻 4) ホルモン療法、血液透析を受ける患者の看護
5	女性生殖器系に障害をもつ患者の看護	神田	1. 症状に対する患者の看護 1) 性器出血 2) 帯下・搔痒感
6	女性生殖器系に障害をもつ患者の看護	神田	2. 検査・治療・処置を受ける患者の看護① 1) 外来・病棟看護・診察介助 2) 外陰疾患 3) 膣疾患 4) 子宮疾患 5) 卵管疾患等
7	女性生殖器系に障害をもつ患者の看護	神田	2. 検査・治療・処置を受ける患者の看護② 6) 化学療法 7) 放射線療法 8) ホルモン療法 9) 体外受精
8	アレルギー疾患患者の看護	傑木	1. 症状に対する患者の看護 1) 呼吸 2) 消化器 3) 皮膚 4) 眼
9	アレルギー疾患患者の看護	傑木	2. 検査・治療・処置を受ける患者の看護 1) アレルギン回避・除去 2) 薬物療法 3) 減感作 4) 気管支喘息 5) アレルギー性鼻炎、アトピー、シックハウス等
10	膜原病患者の看護	傑木	1. 症状に対する患者の看護 1) 発熱 2) 関節痛 3) 皮膚・粘膜 4) 筋症状 5) レイノーリー症状
11	膜原病患者の看護	傑木	2. 検査・治療・処置を受ける患者の看護 1) カテコリド・理学療法 2) リウマチ 3) 全身性エリトマトーデス
12	感染症疾患患者の看護	徳原	1. 感染予防 1) カンガード・プロテクション 2) アウブレイク 3) 予防接種とワクチン
13	感染症疾患患者の看護	徳原	2. 発熱・下痢・発疹時の看護 3. 検体の取り扱い
14	感染症疾患患者の看護	徳原	1. 治療を受ける患者の看護 1) HIV 2) 敗血症 3) 日和見感染
15	終講試験		筆記試験、まとめ
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「腎・泌尿器」、「女性生殖器」、「アレルギー、膜原病、感染症」 2. 配付資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示	
1. テキスト 2. 参考書		1. 系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 [9] 女性生殖器 [11] アレルギー膜原病感染症	
評価方法		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ 成人看護学	科目名：成人看護学演習	野知 祥子(看護師) 石崎 亜記(看護師)	1単位 30時間 (2年次前期)
学習目標	1. 成人期を対象とした看護過程展開の方法を学ぶ 2. 成人期の看護に必要な看護技術を演習を通して習得する		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	糖尿病患者の看護	野知	1. オリエンテーション、ミニテスト 2. 糖尿病の病態生理と治療 3. 糖尿病患者の看護（運動療法・食事療法・薬物療法時の看護） 4. 糖尿病教育入院プログラム（事例紹介）
2			1. 事例展開 事例患者の情報の整理、アセスメント、病態関連図作成
3			1. 事例展開の続き（事例患者の情報の整理、アセスメント、病態関連図作成まで） 2. 事例患者の全体像 3. 統合アセスメント、看護問題の明確化、計画立案
4			1. 糖尿病患者へのパンフレットによる支援 グループごと食事療法・運動療法・薬物療法についてのパンフレット作成
5			1. グループワーク発表 演習（パンフレットによる支援）
6			1. 低血糖発作を起こした場面での援助 演習（援助の実際・場面ごとの判断）
7			1. 演習の振り返り 2. 糖尿病の患者の看護についての復習
8	周術期看護とは	石崎	1) 手術療法と患者の身体的、心理的反応病態 ① 手術による身体の反応 ② 体位の影響 ③ 術式の影響 2) 術前看護・術中看護・術後看護（回復過程と看護） ①術後看護：術後合併症の発生機序と種類 ②術後看護：起こりやすい合併症の予防と看護 ③術後看護：リハビリテーションと生活復帰のための看護
9	周術期看護の実際		1) 病態（消化器・運動器・腎・泌尿器・性生殖器・循環器系・頭部・神経系） 2) 手術による身体の反応 3) 体位の影響（術式の影響術 後合併症の起こりやすい時期、予防、看護） 4) 基礎疾患のある患者の周術期
10	1) 事例展開 ① 事例紹介 情報の整理、アセスメント、病態関連図作成		
11	② グループごとアセスメントを発表 ③ 看護問題の明確化、看護計画立案 グループごと看護計画の発表、意見交換		
12	パンフレットによる周術期支援 グループごと手術オリエンテーション・退院指導についてのパンフレット作成		
13	演習（援助の実際・場面ごとの判断） 場面 手術直後の看護の実際など		
14	演習（援助の実際・場面ごとの判断） 場面 離床・退院指導の実際など		
15	終講試験		筆記試験・まとめ（野知・石崎）
履修上の留意点	糖尿病、手術適応疾患については、解剖、病態生理、検査、治療、看護を事前にテキスト等で復習しておくこと。 課題レポートについては、授業の中で提示する。提出期限を厳守すること。		
1. テキスト 2. 参考書	1. 系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学⑥「内分泌・代謝」「消化器」別巻「臨床外科看護総論」医学書院 新体系 看護学全書 経過別成人看護学③「慢性期看護」メヂカルフレンド社 2. 周術期看護 学習ワークブック メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 経過別成人看護学①「周術期看護」メヂカルフレンド社 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研		
評価方法	1. 課題レポート 2. 筆記試験		

専門分野Ⅱ 老年看護学		科目名：高齢者看護学概論		村田 麻衣(看護師)	1単位 15時間 (1年次後期)				
学習目標		1. 高齢者の身体的・精神的・社会的变化を知り、ライフステージとその健康課題を理解する。 2. 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉の場における課題を理解する。 3. 高齢者の発達課題を知り、老年看護の目的と役割が理解できる。							
回数	主題	講師名	主な学習内容			講義形態			
1	ライフサイクル からみた高齢者 の理解		1. 統計的特徴 1) 老年期の定義 (1)超高齢社会の現況と将来像 (2)高齢者の健康のとらえかた・老年期の位置づけ 2. 老年期のライフサイクルと発達課題 (1)高齢者の生きてきた時代、人生と経験・価値観の多様性 (2)発達理論 (エリクソン・ペック・ハウガード) と老年期の発達課題			講義			
2	老年看護の対象 としての高齢者 の理解		1. 加齢変化に伴う変化 1) 老化と加齢とは 2) 高齢者の身体的・生理的特徴 神経系、運動器、感觉器、循環器、造血器・免疫系、 呼吸器、消化器、代謝系、泌尿器、内分泌、生殖器、性機能 3) 高齢者の知的・認知機能の特徴 4) 高齢者の心理的特徴・スピリチュアリティ側面を含む			講義			
3			1. 高齢者世帯・家族構成の変化とニーズ 2. 家族形態の変化 3. 高齢者と家族の人間関係 4. 家族と介護			講義			
4	高齢者と家族 高齢者の社会的 特徴 高齢者の健康状 態と生活		1. 高齢者の社会的特徴 1) 役割と社会活動変化 2) 余暇活動と生きがい 3) 住宅環境 4) 就労・雇用 5) 収入・生計 1. 高齢者の健康と生活 1) 高齢者の健康状態と疾患の特徴、死亡率と死因 2) 高齢者の暮らし・生活			講義			
5	老年看護におけ る倫理		1. QOLの保障・権利擁護 1) 高齢者へのスティグマと差別、エイジズム 3) 介護者の健康と虐待 (高齢者虐待防止法) 4) 安全確保と身体拘束 (身体拘束禁止規定と例外3原則) 2. 高齢者の尊厳と権利擁護のための制度 1) 高齢者・認知症高齢者のアドボカシー 2) 成年後見制度 3) 高齢者の日常生活自立支援事業			講義			
6	超高齢社会にお ける高齢者の社 会保障の概念		1. 超高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 日本における保健医療福祉制度の変遷 2) 医療保険制度 3) 介護保険制度 4) 後期高齢者医療制度 5) 高齢者を支える地域包括システム 2. 多職種連携と看護活動の場の多様化			講義			
7	老年看護の目的 と役割 老年看護に活用 する看護理論		1. 高齢者看護の概念 1) 老年看護学とは何か 老年看護学の変遷となりたち 2) 老年看護の目標・役割・機能・原則 3) 老年看護に携わる者の責務 2. 老年看護を支える看護理論 1) サクセスフルエイジング・SOC理論 2) エンパワーメント 3) ストレングスモデル 4) コンフオート理論 5) ライフレビュー 6) 危機理論 7) ニード論 8) セルフケア理論			講義			
7.5	終講時試験		単位認定試験			試験			
履修上の留意 点	1. すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 授業者が、学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 3. 講義にはパワーポイント・DVD等映像教材を用いる。								
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学／老年看護病態・疾病 医学書院 2) 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会							
評価方法		1. 筆記試験 2. レポート							

専門分野Ⅱ 老年看護学	科目名：高齢者の生活援助技術	村田 麻衣(看護師) 田中 栄一(看護師) 徳長 和美(皮膚・排泄ｹｱ認定看護師)	1 単位 30 時間 (2年次前期)
学習目標	1. 加齢が生活に及ぼす影響について理解する。 2. 加齢に伴う高齢者の身体症状に対する援助方法について理解する。 3. 高齢者の健康・自立を支えるための基礎的援助を理解する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	生活視点から見た高齢者の理解 高齢者の生活機能アセスメント視点とアセスメントツール	・	高齢者疑似体験（校内にて日常生活行動） 1) 高齢者総合的機能評価国際生活機能分類 (CGA/ICF) 2) 日常生活動作評価 3) 精神・心理機能評価 4) 住環境・対人関係
2	高齢者のセルフケア支援に向けた日常生活援助技術 ①高齢者の食生活と栄養	村田	1. 高齢者における食生活の意義 2. 高齢者に特徴的変調 1) 食生活と栄養消化機能・水分出納のアセスメント 2) 基本的な食事前・中・後のケア *義歯ケア・手入れ 3) 摂食・嚥下機能障害に対するケア 4) 脱水症と看護 *脱水予防 5) 低栄養と看護 6) NSTチーム 多職種連携による食生活支援 【校内演習】 *高齢者への摂食ケア・誤嚥予防・嚥下訓練の実際 *経鼻経胃管栄養の挿入と栄養補助の実際
3	②高齢者への排泄	村田	1. 高齢者の尊厳を守る排泄ケア 2. 泌尿器・生殖機能・排泄機能アセスメント 1) 排尿機能 尿失禁 2) 排便機能 便秘・下痢 3. 高齢者への基本的な排泄援助方法 【校内演習】 *摘便 *オムツ選択とフィッティング *骨盤底筋体操
4	③活動・運動・余暇活動	村田	1. 高齢者にとっての活動基本動作と社会活動の意義 2. 生活動と循環・呼吸・運動機能アセスメント 3. 基本動作・活動を支える援助 4. 転倒予防と看護 *薬剤影響等 5. サルコペニア・ロコモティブシンドロームについて 6. 廃用症候群予防と看護 7. 社会参加を促す援助と社会活動参加促進へ向けての現状 就労 生涯学習 地域活動 【校内演習】 *アクティビティケアの実際 *補助具を使用した移乗・移動介助の実際 *転倒予防の環境調整の実際
5	④身だしなみ・整容・清潔 ⑤高齢者のセクシャリティ	徳長	1. 高齢者にとっての清潔の意義 2. 高齢者の生活習慣と皮膚・免疫機能アセスメント 3. 清潔援助・衣生活援助 4. 高齢者のセクショナリティについて 5. 高齢者ケアの場におけるセクシャリティへの対応・配慮 【校内演習】 6. スキンテア予防 7. 褥瘡予防、褥瘡 I ~ II 度看護の実際
6	⑤休息・睡眠	村田	1. 高齢者にとっての生活リズム・生活習慣の意義 2. ホルモン分泌機能と生活リズム変調のアセスメント 3. 生活リズムを整える援助 *アラームリエーション 4. 睡眠障害のある高齢者への援助
7	⑥高齢者の状態に応じたコミュニケーション	田中	1. 基本的コミュニケーション能力アセスメント 1) 聴覚・視覚機能 2) 発語機能 2. 言語障害・認知機能障害をもつ高齢者とのコミュニケーション 3. 難聴・視力障害をもつ高齢者とのコミュニケーション
8	高齢者特有のリスクマネジメント	田中	1. 高齢者の生活上起こり得るリスクと予防について 1) 転倒・転落リスクと予防 2) 誤嚥・窒息リスクと予防 3) 感染（上気道・尿路他）リスクと予防 4) 熱傷リスクと予防 5) 心身合併症リスクアセスメントと急変時対応の心得

	高齢者における 災害看護	2. 高齢者における災害看護 1) 被災弱者と避難・誘導方法 2) 避難所での生活と健康維持 (DVT/感染/孤立予防)	
13	加齢に伴う身体 症状と看護	1. 加齢に伴い生じやすい身体症状と看護 1) 疼痛 2) 摳痒感 3) 不眠 4) 痒れ 5) 冷え 6) 便秘・尿失禁 8) 振戻	講義
14	生活・療養の場 における看護	1. 高齢者とヘルスプロモーション 2. 健康日本21と介護予防・日常生活支援総合事業とプログラムの実際 3. 病院、介護保健施設、療養型医療施設、介護福祉施設、地域密着型サービス等で求められる援助 4. 介護を必要としている高齢者の家族の援助 5. 地域における多職種連携の実践活動	講義
15	終講時試験	筆記試験・まとめ	試験
履修上の留意点		1. 講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 授業者が、学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 3. 講義にはパワーポイントとDVD映像教材を用いる。	
1) テキスト名 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野II 老年看護学 医学書院 1) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メジカルフレンド社 1) 系統看護学講座 専門分野II 老年看護疾病・病態 医学書院 2) 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 2) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ 老年看護学	科目名：健康障害のある高齢者の看護	地田 紀美子(看護師)　徳長 和美(看護師) 岡田 裕子(看護師)　清水 太郎 (看護師) 田中 茉莉奈(認知症看護認定看護師) 小俣 若子 (緩和ケア認定看護師)	1 単位 30 時間 (2 年次前期)
学習目標	1. 高齢者の健康障害の特徴と援助方法を理解する。 2. 治療を受ける高齢者の看護を理解する。 3. 高齢者に多い疾患の看護を理解する。 4. 高齢者の終末期の看護を理解する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	【治療を必要とする高齢者の看護】 1. 外来・入院・検査における看護	地田	1) 外来を受診する高齢者の特徴 2) 診察時の高齢者への援助 3) 医師からの疾病診断と治療継続の説明と治療継続への援助 4) 検査を受ける高齢者の看護
2	2. 急性期における看護 3. 回復リハビリテーションの看護	地田	1) 手術を受ける高齢者への看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 高齢者リハビリテーションの特徴 2) 活動耐性低下、転倒リスク、リハビリテーション意欲への看護
3	4. 健康障害からの回復を促す看護	地田	1. 循環器系疾患と看護 高血圧、虚血性心疾患、心不全
4		地田	2. 消化器系疾患と看護 胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、虚血性大腸炎、大腸憩室炎
5		田中	3. 認知機能障害のある高齢者の看護 うつ病、せん妄、認知症
6		岡田	4. 脳卒中、神経疾患と看護 脳血管障害（脳梗塞）、慢性硬膜下血腫、パーキンソン病
7		岡田	5. 呼吸器系疾患と看護 COPD（慢性閉塞性肺疾患）、肺炎
8		岡田	6. 内分泌・代謝系疾患と看護 水・電解質異常（低・高 Na 血症、低・高 K 血症、高 Ca 血症） 7. 腎・泌尿器系疾患と看護 腎不全、薬剤性腎障害、尿路感染症、前立腺肥大
9		岡田	8. 運動器疾患と看護 骨粗鬆症、骨折（大腿骨転子部・頸部骨折） 変形性股・膝関節症、変形性脊椎症
10		岡田	9. 皮膚疾患・感覚器系疾患と看護 褥瘡、皮膚搔痒症、白癬、疥癬、老人性紫斑 白内障、緑内障、加齢黄斑変性 10. 感染症と看護：インフルエンザ、ノロウイルス感染症、MRSA 感染症
11	5. 高齢者のエンドオブライフ・ケア・終末期看護	小俣	1) エンドオブライフ・ケアとは 「高齢者とがんの看護」を含む 2) 高齢者の死生観、生きることを支えるケア、意思決定への支援 アドバンスケアプランニング 3) 終末期の看取り看護の実際 4) 家族へのグリーフケア
12			
13	6. 多様な生活・療養の場における高齢者と家族への看護	清水	1) 退院支援における看護の役割
14			2) 退院調整・療養生活を支える看護活動 (90+45 分)
15	終講試験		筆記試験 45 分
履修上の留意点		1. 講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 授業者が学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 3. 講義にはパワーポイントと適宜 DVD を用いる。	
1) テキスト名 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学 老年看護 病態・疾患 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院 2) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メディカルフレンド社	
評価方法		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ 老年看護学	科目名：高齢者看護学演習	村田 麻衣（看護師）	1単位 30時間 (2年次前期)	
学習目標	1. 高齢者の特徴および健康段階をふまえた援助計画が立案できる。 2. 高齢者の看護に必要な看護技術を習得できる。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	高齢者看護の展開の特性	村田	1) 高齢者を支える老年看護の役割と看護をする者の姿勢 2) 高齢者の特性からみた高齢者看護の展開 ・高齢者の生活機能と今後の生活を見据えた情報収集・アセスメント ・高齢者に特徴的な健康問題・看護診断の関連 ・高齢者の長期目標・短期目標設定、個別的看護計画立案 ・高齢者が望む生活を踏まえた看護評価の必要性	
	看護展開に必要な基礎知識		1) 疾患の病態生理・治療と加齢に伴う変化 2) 疾患とその看護 3) 急性期病院に入院する高齢者の退院支援 ・退院支援スクリーニング	
2	【事例：心不全】 急性期にある高齢者の看護の実際		1) 高齢者の入院・治療に伴う合併症リスクと症状観察と異常早期発見 2) 合併症リスク予防と急性期看護の実際 ・転倒転落予防の看護　・せん妄予防の看護	
3			*肺炎併発時の看護の実際 *せん妄発症時の看護の実際	
4			*褥瘡発生時の看護の実際	
5	回復期にある高齢者の看護の実際		1) 回復期にある生活援助の実際と評価 *食事の場面のアセスメントと看護の実際 *排泄の場面のアセスメントと看護の実際 *活動の場面とアセスメントと看護の実際	
6			*経管栄養の実際：栄養剤・栄養量・投与方法の判断、対応 *食事（経口摂取の実際）：口腔ケア、嚥下訓練、摂食訓練	
7			1) 高齢者に必要な継続看護の実際 2) 社会資源の活用の実際 3) 退院指導計画の実際	
8	退院調整を必要とする高齢者への看護の実際		4) 退院指導の実際 ・褥瘡予防　・転倒予防 ・継続治療、異常早期発見の生活指導	
9			老年看護の思考・実践の展開のまとめ	
10				
11				
12	まとめ			
13				
14				
15				
履修上の留意点		1. 講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。授業者が学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 2. 講義にはパワーポイントとDVDを用いる。 3. 老年看護学の各科目を土台に学習していくため、必要時予習課題を提示する。また高齢者を対象にした演習では状況判断・実施・評価を行う。基礎看護技術及び高齢者の生活援助技術の復習を行うこと。		
1) テキスト名 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 1) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メディカルフレンド社 2) 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研		
評価方法		1. 課題レポート評価		

専門分野Ⅱ 小児看護学	科目名：小児看護学概論	高梨 亜紀子（看護師）	1単位 15時間 (2年次前期)	
学習目標	1. 小児看護の特徴と理念を理解する。 2. 子どもの権利を保障することの必要性について理解する。 3. 母子保健・小児看護のあり方を理解する			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	小児看護の特徴と役割	高梨	1. 小児看護の対象 2. 小児看護の目標と役割 3. 小児看護と家族 4. 子どもと家族を看護する看護師の役割	
2	子どもの最善の利益 を守るかかわり		1. 小児の権利と変遷 2. 児童の権利に関する条約 3. インフォームドアセント 4. 権利擁護（アドボカシー） 5. 子どもと家族の看護を専門とする看護師の倫理的役割	
3				
4	子どもを守る法律と 制度		1. 日本の母子保健の現状 2. 小児医療・小児看護の変遷と母子保健 3. 母子保健対策の概要 4. 予防接種 5. 母子保健に関する法律	
5				
6	子どもと社会		1. 子どもを取り巻く社会環境の変化 2. 子どもを取り巻くさまざまな問題	
7	小児の発達理論		1. エリクソンの自我発達理論 2. ハヴィガーストの発達理論 3. ピアジェの認知発達理論 4. ポウルビィの愛着理論 5. マーラーの分離・個体化理論	
7.5	終講試験		筆記試験	
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「小児看護学概論 小児臨床看護総論」 他は必要時指示 2. 配付資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示		
1) テキスト 2) 参考書		1) 統系看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 2) 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会 2) 看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術 メジカルフレンド社		
評価方法		筆記試験		

専門分野Ⅱ 小児看護学	科目名：子どもの成長発達に 応じた看護	高梨 亜紀子（看護師） 根本 三枝子（看護師）	1単位 30時間 (2年次前期)
学習目標	1. 子どもの成長・発達を理解する。 2. 子どもの発達段階に応じた健康増進の看護を理解する。		
回数	主題	主な学習内容	授業形態
1	子どもの成長・発達	高梨	1. 成長及び発達の概念 2. 成長・発達の原則 3. 成長・発達に影響する因子
2	形態的成長発達		1. 体重 2. 身長 3. 頭部 4. 胸部 5. 歯 6. 骨
3	機能的発達		1. 呼吸 2. 循環 3. 血液 4. 体温 5. 消化と吸收 6. 水分と電解質 7. 神経系 8. 免疫 9. 感覚 10. 運動機能
4			
5	心理社会的発達		1. 認知 2. 情緒 3. 社会性 4. コミュニケーション能力 5. 遊び
6			
7	新生児期の子どもの健康増進と家族の支援	根本	1. 新生児とは 2. 新生児の栄養 3. 新生児の健康を脅かすもの 4. 新生児を迎える家族
8	乳児期の子どもの健康増進と家族の支援		1. 離乳食 2. 運動と遊び 3. 事故防止 4. 親子関係/育児の支援
9			
10	幼児期の子どもの健康増進と家族の支援	高梨	1. 基本的生活習慣の確立 2. 自我の発達と遊び 3. 事故防止 4. 家族関係と社会化 5. 家族の支援
11			
12			
13	学童期の子どもの健康増進と家族の支援		1. 学童期とは 2. 身体的成长と心理社会的発達 3. 学校生活 4. 健康生活とセルフケアの発達 5. 学童期の子どもへのかかわり方
14	思春期の子どもの健康増進と家族の支援		1. 思春期とは 2. 身体的成长と心理社会的発達 3. 学校生活 4. 健康生活とアイデンティティの確立 5. 思春期の子どもへのかかわり方
15	終講試験		筆記試験、まとめ
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「小児看護学概論 小児臨床看護総論」他は必要時指示 2. 配付資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示	
1) テキスト		1) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 ・小児臨床看護総論 医学書院 2) 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術 メジカルフレンド社	
評価方法		1. 筆記試験 2. レポート	

専門分野Ⅱ 小児看護学	科目名: 健康障害のある子どもの看護	大矢 智子(看護師) 中村 郁美(看護師)	小俣 若子(看護師) 小林 美恵子(看護師)	1単位 30時間 (2年次後期)	
学習目標	1. 健康障害が子どもや家族に及ぼす影響を理解し、その看護の方法を理解する。 2. 子どもに起こりやすい健康障害を理解し、健康障害を起こした子どもおよび家族への看護の方法を理解する。 3. 様々な状況にある健康障害を起こした子どもおよび家族への看護の方法を理解する。				
回数	主題	講師名	主な学習内容	授業形態	
1	外来における子どもと家族の看護	大矢	1. 小児外来の種類 2. 一般外来における看護 3. 健康増進のための外来における看護 4. 繼続的なケアを行う専門(特殊) 外来における看護 5. 小児救急外来における看護	講義	
2	急性期にある子どもと家族の看護		1. 子どもによく見られる症状とその看護(発熱、嘔吐・下痢・脱水、呼吸困難、けいれん) 2. 小児感染症とその看護(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、百日咳、ロタウイルス感染症、アデノウイルス感染症) 3. 川崎病の子どもと家族の看護	講義	
3			1. 子どもの事故 2. 救急処置を必要とする主な事故(誤嚥、誤飲、熱傷、溺水) 3. 子どもの救急処置 4. 救急処置を受ける子どもと家族の看護	講義	
4	救急処置が必要な子どもと家族の看護	小林	1. 先天異常の種類と特徴 2. ファロー四徴症 3. 先天性股関節脱臼 4. 子どもの先天的な問題に対する家族の理解と援助	講義	
5	先天性疾患のある子どもと家族の看護		1. 子どもの手術の特徴 2. 手術をする健康障害と手術の時期 3. 計画手術・緊急手術・日帰り手術 4. 術前準備の説明(プレパレーション) 5. 周手術期における子どもの安全と家族の看護 6. 手術後の身体状態のアセスメントと看護 7. 退院に向けての看護	講義	
6	手術を受ける子どもと家族の看護	中村	1. 活動制限(安静、体動制限)の目的 2. 活動制限を受ける子どものストレス対処への支援 3. 子どもの日常生活への援助と家族への支援	講義	
7			1. 活動制限(安静、体動制限)の目的 2. 活動制限を受ける子どものストレス対処への支援 3. 子どもの日常生活への援助と家族への支援	講義	
8	活動制限のある子どもと家族の看護		1. 小児がんの症状と治療 2. 小児がんと診断された子どもと家族の看護 3. 小児がんの治療を受ける子どもと家族の看護 4. 痛みを表現している子どもと家族の看護	講義	
9	終末期にある子どもと家族の看護	小俣	1. 死にゆく子どもの看護 2. 死に対する子どもの反応と看護 3. 死にゆく子どもを看取る家族の反応と看護	講義	
10			1. 病気による子どもと家族の生活の変化 2. 小児慢性特定疾患 3. 長期的に治療を必要とする子どもの発達とセルフケアの助長 4. 主な疾患と看護及び家族支援(気管支喘息、糖尿病、ネフローゼ症候群、慢性腎不全)	講義	
11	慢性期にある子どもと家族の看護		1. 障がいのある子どもと家族の看護 2. 子どもと家族の日常生活への支援と社会資源の紹介 3. 在宅療養への移行に向けた支援 4. 在宅療養支援	講義	
12	医療的ケアを必要として退院する子どもと家族の看護	小林	1. 子どものこころのサイン 2. 子どもの心身症 3. 発達障害 4. こころのケアが必要な子どもと家族への援助	講義	
13	こころのケアが必要な子どもと家族の看護		1. 各災害期における子どもと家族の看護 2. 子どもと家族の災害によるストレスと心のケア	講義	
14	災害時の子どもと家族の看護		筆記試験、まとめ		
15	終講試験				
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「小児看護学概論・小児臨床看護総論」「小児臨床看護各論」 2. 配付資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示			
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院 2) 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術 メジカルフレンド社			
評価方法		1. 筆記試験			

専門分野Ⅱ 小児看護学	科目名：小児看護学演習	高梨 亜紀子（看護師）	1単位 30時間 (2年次後期)		
学習目標	1. 小児期におけるアセスメントの特徴が理解できる。 2. 小児に対する基本的看護技術が習得できる。 3. 小児の発達段階に応じた遊びとプレパレーションについて理解できる。				
回数	主題	講師名	主な学習内容		
1	小児看護における看護過程	高 梨	1. 小児看護の対象と目標 2. 小児看護の看護過程の特徴		
2	小児の看護過程展開に必要な知識		1. 小児の成長・発達 2. 小児の病気・入院の理解 3. 子どもの権利とプレパレーション		
3	子どもと家族の健康支援		1. 子どもとのかかわり 2. ケアを受ける子どもへの説明と同意 3. 子どもと家族の力を支える援助		
4			1. 事例課題演習（1） 2. 子どもの入院環境と事故防止 3. 子どもへのプレパレーション		
5	活動に制限のある子どもと 家族への援助		1. 事例課題演習（2） 2. 子どものバイタルサイン測定 3. 酸素療法		
6			1. 輸液療法（点滴の固定）・与薬 2. 検体採取（採血・採尿） 3. 吸引		
7			1. 事例課題演習（3） 2. 輸液管理 3. 清潔援助		
8	呼吸困難な状況にある 子どもと家族への援助		1. 常に持参のテキストは「小児看護学概論 小児臨床看護総論」「小児臨床看護各論」他は必要時指示 2. 配付資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示		
9			1) 統系看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学 概論・小児臨床看護総論 医学書院 2) 統系看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床 看護各論 医学書院 2) 看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術		
10					
11	子どものケアに必要な看護技術				
12					
13	発熱の症状がある子どもと家 族への援助		演習 GW		
14					
15					
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「小児看護学概論 小児臨床看護総論」「小児臨床看護各論」他は必要時指示 2. 配付資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示			
1) テキスト 2) 参考書		1) 統系看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学 概論・小児臨床看護総論 医学書院 2) 統系看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床 看護各論 医学書院 2) 看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術			
評価方法		1. レポート			

専門分野Ⅱ 母性看護学	科目名：母性看護学概論	竹本 知恵子（助産師）	1単位 30時間 (2年次前期)
学習目標	1) 母性看護の概念を理解できる。 2) 母性看護の倫理と法律について理解できる。 3) 人間の性と生殖について理解できる。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	母性看護の概念	竹本	1. 母性とは 1)母性の定義 2)母性の特性 3)母性看護の対象 4)母性看護の目的・役割 5) ウェルネス 2. 母子関係と家族の発達・機能 1)愛着形成 2)母子相互作用 3)家族の発達と機能 4)母親役割、父親役割
2			
3	リプロダクティブヘルス/ライツ	竹本	1. リプロダクティブヘルス/ライツ 2. セクシュアリティ 3. ヘルスプロモーション 4. エンパワメント
4	母性看護の歴史と現状	竹本	1. 母性看護の歴史 2. 母子保健の現状 1)母子保健施策の背景 2)社会情勢の変化からの問題 3)母子保健施策の目標・重要具体政策
5	母子保健の法律・施策	竹本	1. 母子を保護する法律と施策 1)母子保健法 2)母体保護法 3)育児・介護休業法 4)戸籍法 5)死産の届出に関する法律 6)労働基準法 7)男女雇用機会均等法 8)DV法、性暴力被害者支援
6	母性看護の統計・母子保健の動向	竹本	1. 母子保健統計の動向 1)出生の動向に関する統計 2)新生児・乳児・周産期死亡の動向 3)妊娠婦死亡の動向 4)死産・流産・人工妊娠中絶の動向 5)結婚・離婚、家族形態の動向
7	母性におけるライフサイクル各期の看護	竹本	1. 母性におけるライフサイクル各期の特徴と看護 1)思春期 2)性成熟期 3)更年期 4)老年期
8			2. 母性におけるライフサイクル各期の健康課題と看護 1) 思春期：人工妊娠中絶・性感染症 2) 性成熟期：不妊症・月經異常 3) 更年期：更年期障害・骨粗鬆症
9			
10			
11	母性看護における倫理	竹本	1. 母性看護における倫理的課題 出生前診断の事例
12			2. 妊産婦・胎児および新生児の権利擁護と自己決定 1)人工妊娠中絶 2)生殖補助医療 3)出生前診断 4)胎児治療・ハイリスク児の医療
13	女性の身体的な形態と機能の変化	竹本	1. 性周期 2. 第二次性徵 3. 妊娠のメカニズム 1)ヒトの発生 2)性分化のメカニズム 3)受精、着床
14			
15	終講試験	竹本	筆記試験・まとめ
履修上の留意点		1. 配布資料は持参する 2. 発表や資料の提出については、指示あり	
1. テキスト 2. 参考書		1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 2. 国民衛生の動向 一般社団法人 厚生労働統計協会 2. 公衆衛生がみえる	
評価方法		1. 筆記試験：70点 2. レポート：20点 3. グループワーク・ディベートの参加状況、発表内容：10点	

専門分野II 母性看護学	科目名：正常な経過をたどる 妊娠褥婦の看護	相田 浩（医師） 石橋 朋子（助産師）	1単位 30時間 (2年次前期)
学習目標	1) 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2) 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な知識を習得できる。 3) 妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴を踏まえた看護を理解できる。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	妊娠期の身体的・心理・社会的特性	相田	1. 妊娠の生理 2. 胎児の発育とその生理 3. 母体の生理的变化 4. 妊婦の心理 5. 妊婦と家族および社会
2	分娩の要素と分娩の経過	相田	1. 分娩とは 2. 分娩の3要素 3. 胎児と子宮および骨盤との関係 4. 分娩の機序 5. 分娩の進行と産婦の身体的变化 6. 産痛 7. 胎児に及ぼす影響 8. 産婦の心理・社会的变化
3	産褥経過 新生児の生理	相田	1. 産褥期の身体的、心理・社会的变化
4			1. 新生児とは 2. 新生児の機能
5	妊娠期の看護		1. 妊婦・胎児の健康状態と生活のアセスメント 1) 妊婦の健康状態と生活のアセスメント 2) 胎児の発育と健康状態のアセスメント
6			2. 正常な妊婦の看護 1) 妊娠各期の看護・保健指導 2) マイナートラブルへの対処 3) 妊婦と家族への看護 4) 妊婦が受ける保健サービス 5) 妊婦の保健相談 6) 親になるための準備教育
7	分娩期の看護		1. 正常な分娩の経過 2. 産婦・胎児、家族のアセスメント 3. 産婦と家族の看護 1) 安全・安楽な分娩への看護 2) 出産体験が肯定的になるための看護 3) 基本的ニードに関する看護 4) 家族発達を促す看護
8			4. 分娩期の看護の実際 1) 分娩第1期～4期の看護
9	産褥期の看護		1. 褥婦の健康と生活のアセスメント 1) 産褥経過の診断 2) 褥婦の健康状態のアセスメント
10			2. 褥婦と家族への看護 1) 身体機能の回復および進行性変化への看護 2) 育児への看護 3) 家族関係再構築への看護
11			
12	新生児期の看護		1. 新生児のアセスメント 1) 新生児の診断 2) 新生児の健康状態のアセスメント
13			2. 新生児・家族への看護 1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院までの看護
14	施設退院後の看護		1. 施設退院後～1ヶ月健診までの看護 2. 育児不安と育児支援 3. 職場復帰 4. 社会資源
15	終講試験		筆記試験・まとめ
履修上の留意点		1. 配布資料は全て持参 2. 学習形態はその都度指示	
1. テキスト 2. 参考書		1. 系統看護学講座 専門分野II 母性看護学②母性看護学各論 医学書院 2. 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 メディカルフレンド社	
評価方法		筆記試験：100点	

専門分野Ⅱ 母性看護学	科目名 : 異常な経過をたどる 妊娠・産褥・新生児の看護	相田 浩 (医師) 石橋 朋子 (助産師)	1単位 15時間 (2年次後期)
学習目標	妊娠・分娩・産褥・新生児のハイリスク・異常な経過にある対象の看護を理解できる。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	妊娠の異常	相田	1. ハイリスク妊娠 (合併する全身疾患) 2. 妊娠期の感染症 3. 妊娠疾患 (妊娠悪阻・妊娠高血圧症候群・血液型不適合妊娠) 4. 多胎妊娠 5. 妊娠持続期間の異常 (流産、早産・切迫早産) 6. 異所性妊娠
2			
3	分娩の異常	相田	1. 産道の異常 2. 婦出力の異常 3. 胎児の異常による分娩障害 4. 胎児の付属物の異常 (前置胎盤、常位胎盤早期剥離) 5. 胎児機能不全 6. 分娩時の損傷 (子宮破裂・頸管裂傷・会陰裂傷) 7. 分娩第3期および分娩直後の異常 8. 分娩時異常出血 9. 産科処置と産科手術
4	産褥・新生児の異常	相田	1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 3. 産褥血栓症 4. 精神障害 5. 新生児仮死 (新生児蘇生のアルゴリズム) 6. 分娩外傷 7. 低出生体重児 8. 高ビリルビン血症 9. 新生児出血性疾患
5	ハイリスク妊婦の 看護		1. 若年・高年妊娠 2. 切迫流産・早産 3. 多胎妊娠 4. 妊娠高血圧症候群 5. 妊娠糖尿病 6. 多胎妊婦
6	ハイリスク産婦の 看護		1. 前期破水 2. 微弱陣痛 3. 分娩誘発 4. 前置胎盤 5. 常位胎盤早期剥離 6. 分娩時異常出血
7	ハイリスク褥婦 ・新生児の看護		1. 帝王切開術を受けた褥婦 2. 子宮復古不全 3. 産褥期の発熱 3. 産後うつ病 4. 児を亡くした褥婦 5. 低出生体重児 6. 高ビリルビン血症 7. 新生児仮死 8. ハイリスク児の看護・家族への支援
8	終講試験		筆記試験 45分
履修上の留意点	1. 配布資料は全て持参 2. 学習形態はその都度指示		
1. テキスト 2. 参考書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 2. 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 メディカルフレンド社		
評価方法	筆記試験: 100点		

専門分野Ⅱ 母性看護学	科目名：母性看護学演習	内山 真希（看護師）	1単位 30時間 (2年次後期)	
学習目標	1) 正常な経過をたどる褥婦・新生児の看護過程の展開を理解できる。 2) 母性看護に必要な援助技術を習得できる。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	正常な経過をたどる 褥婦・新生児の看護過程の展開	内山	1. 母性看護における看護過程 (ウェルネス志向型看護診断) 2. 褥婦のアセスメント 3. 新生児のアセスメント 4. 看護診断 5. 看護計画の立案・評価	
2				
3				
4				
5				
6	妊娠褥婦の看護技術 新生児の看護技術		【校内演習】 1. 妊産褥婦の諸計測 2. レオポルド触診法 3. 妊婦体験 4. 新生児のバイタルサイン測定・諸計測 5. 新生児の更衣、抱き方・寝かせ方	
7			演習	
8				
9	産婦の看護 災害時の看護		1. 分娩期の看護 2. 産痛緩和法 3. 呼吸法・弛緩法 1. 妊婦、母子への看護	
10	新生児の看護技術		【校内演習】 沐浴	
11			演習	
12	褥婦の看護		授乳支援	
13	技術チェック			
14	異常な経過をたどる 褥婦の看護過程		沐浴	
15			帝王切開術の事例	
履修上の留意点		1. 配布資料は全て持参 2. 学習形態はその都度指示		
1. テキスト 2. 参考書		1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 2. 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 メディカルフレンド社		
評価方法		1. 看護過程の展開：70点 2. 演習への取り組み状況（レポート・グループワーク）：30点		

専門分野	科目名 : 精神看護学概論	後藤 清恵 (臨床心理士) 名達 悠里 (看護師)	1 単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. ライフサイクルと精神の発達危機について理解する。 2. 精神障害の変遷を知り、精神看護学の概念、目的及び精神障害の対象を理解する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	精神保健の考え方	後藤 名達	1. 精神の健康とは 2. 精神障害のとらえ方 3. ストレスと健康の危機 4. 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響
2	人間の心の諸活動		1. 意識と認知機能 2. 感情 3. 学習と行動 4. 知能 5. 心の理論
3	心のしくみと人格の発達		1. 人格と気質 2. ライフサイクルとアイデンティティ 3. 無意識と精神分析 4. 対象関係論 5. ボウルビーの愛着理論 6. コフートの自己心理学 7. 「甘え」の理論
4	関係のなかの人間		1. 全体としての家族 2. 家族の多様性 3. 家族の精神の健康 4. 家族内のコミュニケーションのゆがみ 5. 家族のなかの役割関係 6. システムとしての家族 7. 家族療法の考え方
5	関係のなかの人間		1. 人間と集団 2. 集団なかの自己 3. グループプロセス 4. グループの歴史 5. 全体としてのグループ 6. グループの方法
6	精神看護とは		1. 心のケアと現代社会 2. 精神看護学とその課題
7	精神障害のある対象と看護		1. 精神障害の体験と精神看護 2. 精神看護で何を学ぶのか
8	暮らしの場と精神の健康		1. 学校と精神（心）の健康 2. 職場・仕事と精神（心）の健康 3. 地域における生活と精神（心）の健康
9	精神（心）の危機状況と精神保健		1. 精神保健における「危機」というとらえ方 2. ストレスとは 3. 適応と不適応 4. ストレスマネジメント
10	現代社会と精神保健の問題		1. 現代社会の特徴 社会構造の変化 社会病理 2. 現代社会における精神保健の主な問題
11	精神医療及び看護の変遷		1. 精神障害者と治療の歴史 2. 日本における精神医学
12	社会のなかの精神障害者		1. 精神障害と文化—多様性と普遍性— 2. 精神障害と社会学
13	患者の人権と権利擁護		1. 精神看護における基本的人権と倫理問題
14	精神保健と法律		1. 精神科看護と法律 2. 精神科領域で必要な法律と制度 3. 法律・制度における課題 4. 主要な精神保健医療福祉対策
15	終講試験		筆記試験、まとめ
履修上の留意点	1. 常に持参のテキストは、「精神看護の基礎」「精神看護概論・精神保健」 2. 配布資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示		
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎 医学書院 2) 新体系看護学全書 精神看護学 ①精神看護学概論/精神保健 メディカルフレンド社 2) 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会		
評価方法	1. 筆記試験		

専門分野Ⅱ	科目名：精神看護援助技法	中村 幸恵（看護師）	1単位 15時間 (2年次前期)	
学習目標	精神看護の基本技法を学び、対象理解及び援助に必要な働きかけ方を理解する			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	精神障害をもつ人とのかかわりかた	中村	1. 患者一看護師関係の目指すこと 2. 患者一看護師を理解するための手がかり 3. 関係構築にあたっての基本的な態度 4. 患者とのかかわりでおこりうることと対処	
2	コミュニケーション技術		1. コミュニケーションとは 2. 精神障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴 3. 精神障害をもつ人との関係の振り返り プロセスレコード 4. コミュニケーション技法 言語的・非言語的コミュニケーション	
3			GW	
4	看護援助の基本構造		1. 情報収集・アセスメント 2. 看護診断 3. 看護計画 4. 実施 5. 評価	
5	精神障害をもつ人のセルフケアの援助		1. セルフケアとは何か 2. 看護理論 オレム理論 3. セルフマネジメントの背景 4. 患者と医療者の関係からみたセルフマネジメント 5. セルフマネジメントのための疾病教育 6. 服薬自己管理	
6	治療的環境と患者の生活		1. 精神障害をもつ人にとっての入院の意味 2. 治療的環境の整備 1)環境が人にもたらす影響 2)効果的な入院治療とするには	
7			1. 精神科看護における安全管理 2. 病棟環境の整備 3. 自殺・自殺企図・自傷行為 4. 攻撃的行動・暴力・暴力予防プログラム 5. 離院 6. 隔離・身体拘束	
8	終講試験		筆記試験 45分	
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは、「精神障害をもつ人の看護」 2. 配布資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示		
1) テキスト 2) 参考書		1) 新体系 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 メディカルフレンド社		
評価方法		1. 筆記試験		

専門分野Ⅱ		科目名：精神障害のある対象の看護		春木 ひろ子（看護師） 五十嵐 恵美子（看護師）	1単位 30時間 (2年次後期)		
学習目標		1. 診察・検査・治療を受ける対象に必要な看護を理解する。 2. 障害をもちながら生活する対象に必要な支援方法を理解する。					
回数	主題	講師名	主な学習内容		授業形態		
1	精神症状と看護	五十嵐	1.不安 2.抑鬱 3.幻覚・妄想 4.思考障害 5.強迫行為・恐怖症 6.ん妄 7.心気状態 8.精神運動興奮 9.自発性の減退 10.混迷 それぞれの看護		講義		
2	神経症状と看護	五十嵐	1.てんかん 2.言語障害 3.運動障害 失行・失認 4.認知症 それぞれの看護		講義		
3	診察・検査および治療に伴う看護	五十嵐	1.診察に伴う看護 2.検査に伴う看護 3.薬物療法に伴う看護 4.電気けいれん療法を行う患者の看護		講義		
4	統合失調症患者の看護	五十嵐	統合失調症患者の急性期から回復期の看護		講義		
5	気分障害患者の看護	五十嵐	気分〔感情〕障害患者の急性期から回復期の看護		講義		
6	神経症性障害、ストレス関連性障害と看護パーソナリティ障害と看護	五十嵐	1.神経症性障害、ストレス関連性障害と看護 2.パーソナリティ障害と看護		講義		
7	依存症と看護	五十嵐	依存症と看護 (アルコール 薬物 SNS ギャンブル等)		講義		
8	地域精神保健福祉と社会参加	春木	1.地域保健福祉の考え方 2.精神障害をもつ人の社会参加 3.地域精神保健福祉における多職種連携		講義		
9	精神障害をもつ人の地域生活支援の実際	春木	1.地域生活を支える社会制度 2.精神疾患患者の動向 3.地域における保健師の役割		講義		
10			4.長期入院患者の地域生活への移行支援		講義		
11			1.訪問看護 2.関係性の構築モニタリング機能 3.日常生活への援助 4.就労支援		講義		
12	リエゾン精神看護	春木	1.リエゾン精神看護とは 2.リエゾン精神看護活動ケアの実際		講義		
13	精神障害をもつ人を介護する家族への支援	春木	1.患者家族の体験 2.家族のケア提供 3.家族が危機を乗り越えるための援助		講義		
14	司法精神医学と看護	春木	1.司法精神医療と司法精神看護 2.災害時の精神看護 90分間+45分間		講義		
15	終講試験		筆記試験 45分		試験		
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは、「精神障害をもつ人の看護」 2. 配布資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示					
1) テキスト 2) 参考書		1) 新体系 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 メディカルフレンド社					
評価方法		1. 筆記試験					

専門分野Ⅱ	科目名：精神看護学演習	荻原 初美(看護師) 滝澤 弘規(看護師) 山田 さおり(看護師) 名達 悠里(看護師)	1単位 30時間 (2年次後期)
学習目標	1. 精神に障害をもつ対象の看護過程の展開が理解できる。 2. レクリエーションの企画を立案できる。 3. プロセスレコードによって自己のコミュニケーションを振り返ることができる。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	統合失調症をもつ人の看護過程の展開	荻原	I. 事例を用いた統合失調症をもつ人の看護過程の展開 1) 主な症状、検査、治療と看護 2) 事例提示 アセスメント 3) アセスメントから問題点の抽出 事例のアセスメントから問題点の抽出 看護診断
2		荻原	4) 看護計画 発表 まとめ
3		荻原	
4		荻原	
5	うつ状態にある人の看護過程の展開	荻原	II. うつ状態にある人の看護過程の展開 1) 主な症状、検査、治療と看護 2) 事例提示 アセスメント 3) アセスメントから問題点の抽出 事例のアセスメントから問題点の抽出 看護診断
6		荻原	
7		荻原	4) 看護計画 発表 まとめ
8	レクリエーションの企画・運営	山田	1. レクリエーションの目的 方法 安全への留意 2. レクリエーションの計画立案 3. レクリエーションの実際
9		山田	
10	長期入院患者の地域生活への移行支援	滝澤	1. 生活技能訓練(SST)について 2. 生活技能訓練(SST)の実際
11		滝澤	
12	プロセスレコード	名達	1. プロセスレコードとは
13		名達	2. 事例をもとにグループ討議
14		名達	3. 事例をもとにグループ討議
15	アルコール依存症のある対象の看護	名達	1. アルコール依存症のある患者の言動から看護を考える
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは、「精神障害をもつ人の看護」 2. 配布資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示	
1) テキスト 2) 参考書		1) 新体系 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 メディカルフレンド社	
評価方法		1. レポート (看護過程の展開 70点、プロセスレコード 30点)	